



南部町立南部中学校 学校だより 第1号

千一ム南部中

令和2年 4月22日(水)
校長 望月和彦

48名の新入生を迎え、令和2年度スタート!

3月4日からの臨時休業のため、33日間学校に登校することができなかった新2年生、新3年生が、4月6日久しぶりに学校に登校しました。体育館で窓を開け、いつもより距離を開けながら新任式と始業式を行いました。内田勝久教頭をはじめ7名の新任の教職員を紹介し、始業式では、各学年と生徒会の代表が新年度の決意を述べてくれました。一瀬友希さんは「47名が覚悟を持って、2年生としての責任を自覚し1年生の見本となるよう明るく元気に頑張ります。」仲亀歩華さんは「今日から3年生。すべての行事に“最後の”がつく。そして統合10年目の大切な年。全校の先頭に立って、学校を引っ張っていけるようがんばりたい。」芦川遙也さんは「今年は創立10周年。クラスや学年の目標をしっかりと考え、理想の先輩像を考えながらより良い学校をつくっていこう。」



そして、全員で協力してコロナウイルスの危機を乗り越えよう」と、3人ともとても立派な発表でした。

始業式での話の冒頭、私は臨時休業中に「友だちと遊びたいと思った人?」「部活動をしたかった人?」「学校に行きたいと思った人?」に手を挙げてもらいました。予想通り、ほぼすべての生徒の手が挙がりました。(授業を受けたいと思った人は、残念ながらわずかでした。)生徒たちにとって、学校

は大切な場所である事を改めて確認することができました。生徒たちが辛かったように、臨時休業中の職員室の教職員の雰囲気も重苦しいものがありました。中学校で、生徒の声が聞こえない期間がこれほど長く続いたことは、戦後なかったのではないのでしょうか。33日間は、生徒たちにとっても、教職員にとっても、やりきれない重苦しい日々でしたが、あたりまえの学校生活がどれほどありがたいものであるかを改めて感じる事ができた期間でした。入学式の会場準備を2・3年生が行ってくれましたが、無駄話をせずきびきびと働く姿、指示がなくても自分で考えて行動する姿勢に頼もしさを感じました。長い休みの間に学年が一つ上がり、心も体も成長したように思えました。2・3年生、ありがとう。



翌7日、青空の下、第10回入学式を行いました。令和2年度の新入生は男子28名、女子20名で合計48名です。いつもなら2・3年生が新入生を出迎えてリボンをつけてくれたり、歓迎の言葉や合唱を贈ってくれたりするのですが、今年はそれができなかったのが残念でした。新入生たちは、登校してすぐに、式の流れや動きの説明を受け、少し練習しただけでしたが、入場も、担任の呼名に対する返事も、礼や聞く態度も、とても立派でした。真新しい制服を着ているせいもあると思いますが、小学校の6年教室で見せてもらった姿に比べて一回り大人になった感じがしました。私は「迎える言葉」のなかで、次のような話をしました。

…(略)…本校には統合以来大切にしてきた言葉があります。それは、「気づき 考え 行動 そして感動」という言葉です。小学校時代にも様々なことを学び、経験し、力をつけてきたと思いますが、先生や大人の指示通りに行動することが多かったのではないのでしょうか。中学生になると、皆さんの心や体は驚くほど成長します。「気づき」とは、中学校生活の様々な場面で「素敵だな」「大切にしたいな」「こんな風になりたいな」「ここを伸ばしたいな」とか、「おかしいぞ」「間違っているんじゃないかな」「ここが自分の苦手なことだな」「ここを変えたいな」など、自分自身で感じたり、発見したりすることです。まずは「気づき」を大切にしましょう。そして、次に「考える」こと。「これを身につけたり、伸ばしたりするためには何をすべきか」「それを改めたり、変えたりするためには何をすべきか」「自分には何ができるか」をじっくり考えましょう。そして「行動」することです。ここが一番難しいことかもしれません。勉強しなければとわかっていても、勉強できなかったり、やってみたくとも手が挙げられなかったり。「やってみて、失敗したらどうしよう。」とこの足を踏むこともよくあることです。しかし、失敗せずに小さくまとまるより、失敗を重ねて試行錯誤を繰り返し、工夫することを学ぶ事の方が、遥かに人生には役に立ちます。そして、目標を達成したときはもちろん、目標が達成できなくても、努力の中で何か学べたとき、「感動」が得られるのだと思います。中学校生活三年間は、時間にすると小学校の半分ですが、皆さんの力を高め、感動できる様々なチャンスが待っています。新たな知識や技術を学ぶ授業、目標目指して仲間とともに身体や心を鍛える部活動、生徒会が中心となって自分たちで創り上げる「輝城祭」、学級や学年が気持ちを一つにして創り上げる「音楽発表会」、教室では学べない様々な体験ができる校外学習や宿泊学習、修学旅行などです。それらすべての活動や取り組みの中で、常に「気づき 考え 行動 そして感動」のプロセスを大切に、南部中文化をつくる一員として、一步一步成長してくれることを期待しています。…(略)…

本校10回目の入学生である48名のこれからの活躍を楽しみにしています。

臨時休業中の生活がとても大切です

4月11日から26日までだった「臨時休業」を5月6日まで延長しました。一日も早く再開できることを願っていますが、最も大切なことは新型コロナウイルスから生徒全員の健康と安全を守ることです。週一回の家庭訪問など、今後も学校は可能なサポートを考えていきますが、直接指導ができない今、生徒自身の自律した行動とご家族のサポートがとても大切です。長期間の休みになっているので、この期間をどのように過ごすかが、自分や大切な人の健康や安全、今後の再開後の学校生活に大きく影響します。3月にも伝えましたが、次のことを是非守ってください。

臨時休業期間（～5月6日まで）の生活について

- 1 今後も、学校からの必要な連絡や情報伝達は、保護者への「安心安全メール」を使って行う。メールの内容は、生徒と保護者で共有してもらう。
- 2 学校のある日と同じような生活リズムをつくり、起床・就寝、栄養バランスを考えた3度の食事、休息、学習、運動などを取り入れた規則正しい生活をする。
- 3 ゲーム、パソコンやスマホの利用時間や使い方には十分注意する。
- 4 こまめな「換気」「手洗い」を心がけ、必要に応じて「マスク」を着用する。
- 5 感染リスクを減らすため、「密閉」「密集」「密接」の3密が重なる場所を避ける。
- 6 学校から出された課題（高校から出された課題）や指示された自主学習を計画的に進める。※これができかどうかでかなりの学力差が生まれます。
- 7 部活動は当面中止。健康面や精神面を考え、運動時間もつくる。学校の校庭や公園、広場を使って個人又は4人以内で運動しても良い。小学校校庭などを借りる場合は、職員室で許可を得てから運動する。（距離は2m以上あける、時間は2時間以内、できるだけ午後）
- 8 臨時休業中の生活や家庭学習について、わからないところがあったり、不安なことがあった場合、遠慮せずに学校に電話して学級担任や担当教員に教えてもらったり、学校に来て相談したりする。学校に来る場合は、担当者が不在の場合もあるので事前に電話連絡する。
- 9 4月22日～24日に1回、4月30日から5月1日に1回、生徒の学習や生活状況を確認するために本校教員が電話連絡や家庭訪問をさせていただきます。
- 10 発熱やだるさが続くなど、健康面で心配がある場合は、病院に行くとともに学校に連絡する。